

関ヶ谷自治会ホームページではカラーでご覧なれます



宮城県栗原市と同じ震度7の揺れを
必死に耐え据わっている皆さん。

実に有意義な 『総合防災センター』 実体験でした

防災V.G副代表 田崎幸雄

「大地震は必ずやってくる。その時、行政からの支援はすべてには届きません。頼みの行政も被災するのです。
一人ひとりの備えと地域の絆で大地震を乗り越えるしかありません。」

(よこはま地震防災市民憲章)

6月8日(木) 7時50分、グルメシティ前、参加者23名。

曇り空、時々小雨の天気予報も何のその。8時バスは出発進行、一路、神奈川県総合防災センターへ。

神奈川県、最新、最大、最強の総合防災センターだけあって、それは見事な施設でした。

◆地震、◆風水害、◆消火、◆煙避難、の体験コーナーでは、聞きしに勝る予想を遥かに超える実体験に、唯々、震えのばかり、驚くばかりの、実に有意義な研修会でした。

今回参加のメンバーは、山本自治会長、徳岡V.G代表を始め、自治会防災担当皆さんの参加が多かったのですが、この体験・研修会への参加は、来年以降は、自治会の地域住民の皆さんに一人でも多く、是非ぜひ、ご参加いただき、実体験していただきたいものだと強く、よく感じた次第です。

神奈川県総合防災センター見学に参加して

総務部長 栗原 廣之

参加者23名の口頃の行いのお陰か、予定では9時半頃に到着の予定が9時前に厚木にある神奈川県総合防災センターに到着。

中に入ると、「東日本大震災で記録された津波高」の巨大な表示物が私たちを釘付けにした。



防災センタースタッフの徳田さんの案内で、防災シアターへ。視聴後、体験コーナーへ誘導。

1階には地震体験コーナー、風水害体験コーナー、2階には消火体験コーナー、煙避難体験コーナーの4つ。

地震体験コーナーは関東大震災、阪神淡路大震災、東日本大震災、オリジナルプログラムの4パターンを実施。6人ずつ4グループに分かれ、4パターンの一つを体験。

私が体験したオリジナルプログラムは、2011年3月11日の最大震度7を記録した宮城県栗原市の築館の揺れを参考に作ったと解説。実際は、6分近く続いたが、オリジナルプログラムでは2回の大きな揺れのピークを中心に、約1分40秒程度とのこと。疑似体験とはいえ、いきなりの大きな揺れで、机の下に潜り込むのが精いっぱい。「スイッチを切って」「部屋の扉を開けて」というミッションは対応不可。余震と本震が同じだと何回続くのか恐怖を覚える。
阪神大震災でも、アンケートの7割が「何もできなかった」と回答。

風水害体験コーナーでは最大風速30メートル(時速108km)を体験。風速26メートルで歩行困難。

消火体験コーナーでは消火器は16秒間で空に。火元を狙うこと。火が天井に上がったから逃げる。

煙避難体験コーナーでは煙の発生した迷路となった部屋を火元の位置を確認して、出口を目指すという体験。時には入口に舞い戻ってしまう人もいるとのこと。

年間6万件の火災のうち2000人が煙で死亡とのこと。姿勢を低くして、ハンカチ(できれば水に濡らした)を口にあてるのがポイント。

2時間弱の見学・体験時間はあっという間に終わり。最後に「天災は、忘れなくてもやってくる!!」

県防災センターに参加して

47-14 井上 貞子

6月8日厚木にある防災センター見学会に参加しました。横浜セレモホール提供のバスに乗って、梅雨入りで前夜からの雨も朝には揚がり、幸い1日傘を開くことなく見学です。

東日本の災害以来関心が高まっているので、23名です。予定より早く到着して、地震、風害、消火、煙避難の体験、前もっての心構えは出来ているものの、実際に遭遇したらと思うと、天災に巡り合うことのない様にと願うばかり。

終わって次のハイライト、アサヒビール工場見学と、昼食をレストランへ。

出向いたら満席、仕方なく近くのコンビニで調達、美味しいランチを朝食ヌキで宛にしていた皆さんも、マアこれも防災体験の内と笑い、一番お楽しみのビール、一人3杯の試飲へとようやく満喫。この後、今季節にあった、あじさい祭りへ。足柄の山々に囲まれた田園風景の、のどかさの中で紫陽花を見るには絶好の天気散歩。午前中の緊張も忘れて心地のよい一日でした。

企画された防災関係者に感謝して。



自治会「防災訓練」のお知らせ!

関ヶ谷自治会

- ◆日時; 平成29年9月16日(土) 10:00より
- ◆訓練内容:自治会員全員で「安否確認+防災アンケートの回収」を行います。(詳細は、後日各戸配布でご案内いたします)。



今後の活動予定

【スタンドパイプを使った消火訓練】 防火チーム

私たち自身の身を守り、町を守るための防火訓練です。この機会に、ご近所の方やご家族と共にぜひ参加ください。

- 実施日時: 平成29年8月19日(土) 10:00~11:30(雨天中止)
- 実施場所: コミュニティハウス門前 (44ブロック田中様・高槻様宅前)
- 体験訓練: 当日の参加・体験可能です。(手袋を持参ください)
- 釜利谷消防出張所所員による「消火デモンストレーション」があります。



「防災ボランティア懇親会を開催して」

防災V.G第一G長 世話役 陣座 昭

結成以来初めての防災ボランティア懇親会が開かれました。

何か特徴ある会にしようと考え、前半、炊き出し訓練、後半懇親会となり、参加者は男性16名、女性15名の計31名でした。

会費は男子1000円、女子500円、参加者にはあらかじめ、米100gと各自の家庭に備蓄した非常食持参を、頼みました。

私は「じゃまご」地区の訓練時炊き出しの実演を見学する機会もななく、そのように「こころ」回の訓練を兼ねた懇親会は、非常に有意義な取り組みでした。特に、参加者全員に「じゃまご」の材料の「100g」の詰めこみの貴重な体験、「じゃまご」は沸騰させた湯に25分（20分漬け、取り出して15分蒸らす）、カレーは30分漬けておく等「こころ」頭で覚え込みました。

カレーの味も申し分ありませんでした。

山本会長、徳岡代表の話に続いて乾杯は防災ボランティアの祖である、小西さんに取っていただきました。非常食も沢山集まりました。

非常食の保管は役所では、ローリングストッククツとして、食べながら不足した個数を買って足して保管すると言ったのを推奨しています。期限切れを防止する良い方法だと思います。

笑い声の絶えない楽しい第一回防災ボランティア懇親会となりました。

自助・共助・公助



懇親会炊き出し訓練に参加して

防災部長 櫻井 早苗

我が関ヶ谷自治会防災の対策は、どんなものがあるのでしょうか。図らずも突然の防災部長に任命され、戸惑いながらの日々です。防災対策の一環として企画されました今回の炊き出しをのぞかせて頂きました。

30数名参加者が集い、いしか必ず起るであろう災害の予行練習です。

防災ボランティアの皆さんが7年前に立ち上げられた、歴史や人脈にも触れる事ができました。

今回は食料物資チームの皆さんによる、カレー作りです。（詳しくは自治会員名簿76ページに掲載されております）実はその存在すら知らなかった私でした。



4班にわかれそれぞれに作り、まさにあつた間の出来上がりさすがの早業でした。

今回の30回目という我が班担当者は、今回が一番美味い出来たとの事でした。まさに30回目の正直です。

くり返し練習を重ねる大切さを教えられました。ご飯も、カレーもはちりです。その後皆さんと和気あいあい試食して中身に入れる具も「コンブ」や「蟹」庭に栽培している「コーヤ」など「バリエーション」も話題に上がり大変盛り上がり、楽しいひと時でした。

又これを機会に次回からは私もチームに加えてさせて頂く事になりました。

年令に関係なく、元気で文をえる側でありたいと思っております。

防災V.G懇親会&炊き出し訓練に参加して

3-8 齊藤 明德

平成29年7月22日、自治会館に防災ボランティアの有志31名（男性16名、女性15名）が参集しました。

11時から4班に別れ、各自が持ち寄った白米と食料・物資チームが前もって用意して頂いた（カレー粉+刻んだ野菜+シーチキン）を夫々湯煎用ポリ袋に封入し、自治会防災用品である大釜の沸騰したお湯に入れること25分、更に15分蒸らししました。

丁度いい加減に炊き上がったご飯をトレーに取り分け、その上「リアップ」のカレーのルーをかけて全員で試食しましたが、非常食とは言いが、なかなかいける味でした。

他にもパンの缶詰、クラッカー、ビスケットなどの防災備蓄食品も味わいながら、12時過ぎから懇親会に移り、「ビールやお酒も入り、防災ボランティア同士の和やかかつ有意義な集まりでした。

防火チームからはスタンドパイプを使った消火訓練（8月19日）の参加呼びかけもありました。

このような炊き出し訓練などの催しは、防災V.Gだけに留まらず、地区毎の自治会員が多数参加する地区での開催が、非常時の対策として、今後とも必要と感じました。



「炊き出し訓練+懇親会」

アンケート結果報告

Q: ポリ袋による非常食作り、「自分で体験された」いかがでしたか?

A: 初体験の方「いい体験が出来た」と好評。
A: 複数回体験している方「経験を重ねることで、確実にスキルアップし、色々なメニューの提案がありました。」

A: 混ぜご飯など副菜が無くてもいいような物。
A: 豚汁など温かい汁物。プリンデザート。

Q: 非常食用「ポリ袋」の備えは?

A: 備えている73% 備える予定も含めると93%

Q: 防災V.G結成後、初めての懇親会のご感想

は?

A: これからも是非開催してほしい（全員の回答）

その理由として

A: 和やかで楽しかった。

A: 名前と顔が一致した。

A: 防災V.Gの仲間意識（連帯感）の高揚。

A: 参加者が一寸少なかった。今後その対策を。

Q: 「防災V.G」の活動について意見を

A: 防災V.Gも高齢化している。若い世代の参加の呼びかけ。

A: 「防災V.G」の活動について地域の皆さんへの周知不足。その対策を「自治会」としても力を入れて欲しい。

A: 「防災V.G」の活動を継続するよう「じゃまご」のご協力をお願いしたいです。

「じゃまご」

今回の会はアンケート結果に出ているように、大成功でした。継続は力なり

今後とも皆さまの協力をお願いいたします。